

## 若きアスリートたち 速報

昨夜、私の電話にうれしい知らせが届いた。

「8月22日の試合で槍投げ60m04cmをマークしました！」

今年、大学へ進学した黒須からのものであった。

卒後1年のブランクがあるにも関わらず、入学後4か月で自己記録を更新した。しかも関西インカレの標準を突破という優れもの！

黒須といえば、石田の春高記録更新を常に期待された逸材。故障に泣きながらもインターハイ出場を決めた(↓)春高歴代2位の偉大なるジャベリンスロワーである。



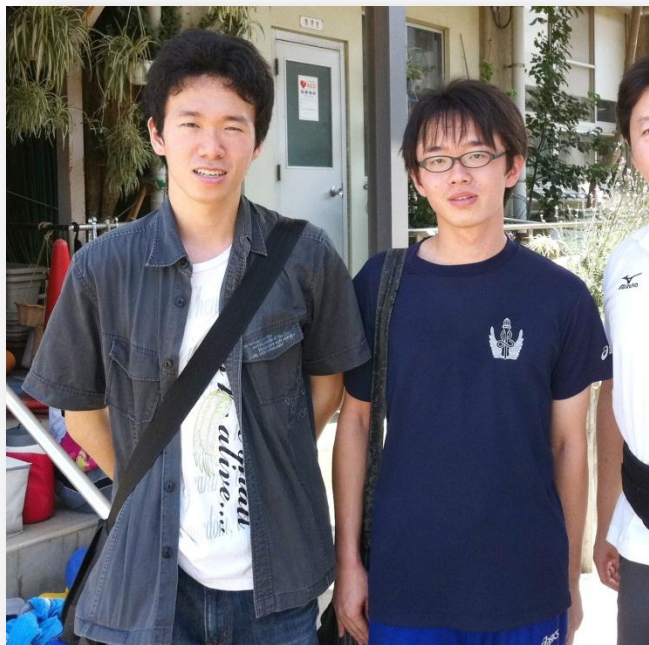
槍投げでのインターハイ出場は石田でさえ果たしていなかった大仕事。記録をみれば30年以上も全国出場を逃していた難度の高い種目なのだ。

ただ私は「故障しないで・・・」とだけ伝え、今後の躍進を見守りたい。素人の私からしたら、あんな重いもの60mも投げればヒジが壊れる・・・と



心配になる。

記録が出始めたときこそ、経験していない大きな力が身体にかかるので、ケガが心配なのだ。どんな種目でも優れた記録を出すという事は大きなエネルギーが生まれるのだから。まだ1年生なのだからあわてないで身体を仕上げしてほしい・・・と願う。



その黒須が春高入学したときの3年生エースが（←）競歩の春高記録保持者高島佑太だ。

県大会を制した高島は、勢いに乗って小瀬で開かれた関東でも優勝。春高史上最強のウォーカーだ。

あれから4年、東京外国語大学で関東インカレ2部3位表彰台を決めたエースは、来年は都内国立大学・大学院への進学が決まっているそうだ。

この日は競歩の練習ビデオを後輩のために持ってきてくれた。

このように多くのOBたちが様々な形で春高陸上競技部を支えている。

私から見れば高校生も大学生も初々しい「若手現役」なのだが、高校生からすると彼らは指標とすべき偉大なる先輩なのだ。

筆 37回 野本